

# 地域と協同の 研究センターNEWS

2017年8月25日発行  
156号

## 【巻頭言】

子ども食堂の意義と今後の課題

### 「あいち子ども食堂ネットワーク」の設立経緯から

成元哲（そんうおんちよる）中京大学教授

愛知県に子ども食堂が産声を上げてから2年余で60ヶ所近く開設されました。しかし、開設した後の子ども食堂は運営にさまざまな課題を抱える一方、これまでとは違う一般企業などが子ども食堂の運営主体として参入しつつあるのが現状です。そこで、子ども食堂に心を寄せる方々が一堂に会し、情報交換、学校・地域社会・行政・企業との連携を目的に、2017年6月24日、「あいち子ども食堂ネットワーク」が立ち上げられました。中京大学名古屋キャンパス清明ホールで行われた「あいち子ども食堂ネットワーク創立総会&講演のつどい」には、愛知県副知事をはじめ300名を超える方々にご参加いただきました。その後、約40ヶ所の子ども食堂が「あいち子ども食堂ネットワーク」のホームページに登録しました。それに加えて、未登録のところも含めると、愛知県内には60ヶ所くらい、子ども食堂が運営されているようです。これは私のゼミの学生たちが実際、愛知県内の子ども食堂に出かけてボランティア活動を通じて持ち寄った情報を踏まえた概算です。これらの子ども食堂は、NPOやボランティア団体、レストラン、寺院・教会などが運営し、主婦や学生がボランティアとして参加しています。多くの子ども食堂は食事を提供するとともに、絵本の読みきかせ、学習支援、音楽やゲームなど多様な学習交流プログラムを用意しています。

この2年余りで愛知県内では子ども食堂が急速に増え、また、横のつながりも出来ましたが、一般社会の子ども食堂に対する受け止め方は変わりつつあります。特に、今年の夏休み特別企画で、子ども食堂を開催している団体に対するネット上の書き込みを拝読すると、概ねネガティブな反応です。というのも、「子ども食堂って、貧困そうな子どもが来るところじゃなくて、普通の学童や遊び場と変わらないなら、わざわざ子ども食堂と名乗る必要などないのではないか」というのがその多くの反応のようです。これまで「子ども食堂＝貧困対策」という受け止め方から、それ以外のものへと子ども食堂観が変わりつつようです。今後、子ども食堂はどうあるべきか、様々な議論がなされていますが、一番の決め手は、子ども食堂の運営者とそこに集う子どもたちのニーズだと私は考えています。地域によって子ども食堂のあり方は様々であることは当たり前です。運営する側がどのような子ども食堂を目指すのか、子ども食堂に参加する多くの方々とともに、自分たちの実情にあうスタイルを模索すべきでしょう。そういう意味で、今、愛知県内の子ども食堂は大きな転機を迎えつつあると考えています。

▶成先生には「2030年へのメッセージ」第二弾公開企画「地域での協同活動に学ぶ（9月16日13時～・コープあいち生協生活文化会館）」にて基調講演いただきます。詳細は差し込みびどうをご覧ください（9月9日申し込み締め切り）

会員が出会い、学び合い、気づいて、共感し、もう一步深く研究し、考え合う。そんな場が地域と協同の研究センター。

そして、地域の様々な団体と手をつなぎあい、「地域の困った」にも向き合う関係が広がってきました。設立から17年目、このような活動は会員の参加と会費を推進力にしてすすめられてきました。

この秋、会員がさらに広がるように「会員おさそい月間」に取り組みましょう。

個人会員（正規・賛助）の皆さんに「研究センターNEWS」をもう一部お届けしました。

お知り合いの方、職場の仲間にご紹介いただき、秋の企画と一緒にご参加ください。そして、私たちの仲間入りを考えてもらいましょう。

「2017年度版のパンフレット」が完成。ご希望の方は電話・FAX・Eメールでお申し込みください。



※「CONTENTS」は2頁、8月の活動は7頁をご覧ください

## 第32回 ものづくりの思いを語る会

## 九鬼産業の「妥協しない」姿勢に学ぶ

文責：伊藤小友美（事務局）

第32回ものづくりの思いを語る会を、8月8日～9日、四日市市の九鬼産業株式会社の本社工場にて開催しました。会の発足から17年、ものづくりへの熱い思いを語り続け、メンバーのものづくりの現場を訪れることを重ねてきました。一巡し、あらためて原点を見つめ直そうと、昨年は内堀醸造を再訪、今年は、九鬼産業の本社工場（ごま油・食品ごま製造）、竹成工場（ねりごま製造）、マニユアー工場（肥料製造）を見学させていただきました。九鬼産業の社是「生産を通じて社会に奉仕する」は、「妥協しない」ことを軸に追求されています。美味しさ・品質・安全・未来のために妥協しないことです。生産の現場で、たいへん有意義な議論ができました。このニュースでは、現地で学んだことを中心にお伝えします。



国産ごまの花

九鬼産業の創業は明治19年。当初より、ごま油は、ごま本来のおいしさ、香りをお届けできる圧搾法のみで製造されています。ねりごまは化学薬品を使わず製造、食品ごまは、焙煎度合いが決め手ということでした。

工場内では、各部署で働くみなさんの顔写真入りのメッセージボードが貼られ、好きな商品の紹介があったり、仕事で掲げる目標が書かれたりしています。社内あらゆるところで、6S（「清掃、清潔、整理、整頓、しつけ、習慣」の頭文字からつくられた九鬼産業独自の行動規範。）活動を徹底しています。その取り組みは、働くみなさんひとりひとりの心意気を表しているように感じました。そしてそのひとりひとりが大切にされ、輝くことをめざしていると、お会いしたみなさんから直接感じました。

## &lt;高品質を追求 Quality 品質に妥協しない&gt;

高品質を追求するため、国際規格の認証を受けています。ゼロ・コンタミネーションをめざし、あらたな選別ライン（風力、色彩、磁力等）を設けています。2011年に新設されたボトリングプラントでは、ごま油を充填する際、資材豆乳からダンボールの梱包、パレット積み、製品のラップ巻きまでをすべて自動で行っています。2016年に開設したオートパッキングプラントでは、業界初のロボットを導入しました。

## &lt;おいしさを追求 Delicious 国産ごまへの挑戦&gt;

ごまの皮をむく工程は、有機溶剤を使用せず、物理的な摩擦によっています。味の違いは、手間と時間をかける、昔ながらの製法をかたくなに守ることから生まれています。

ごまの自給率は1%に満たないことをご存じでしょうか。九鬼産業では、国産ごま栽培の活性化を目指して、2014年から福祉事業所との連携でごま栽培を開始しました。この取り組みは2015年にフード・アクション・ニッポン・アワードで優秀賞を受賞しました。

新入社員は度会郡大紀町でごまの栽培研修に取り組みます。4月1日に入社し、4月半ばから収穫が終わる8月まで、自炊をしながら、真黒になって体づくり、ごまの栽培をするのですが、これも20数年続けているということです。ごまの圃場を訪れましたが、直前に襲った台風5号の影響で、多くのごまの茎が倒れていました。もう少しで収穫というとき

に、容赦ないのは自然の脅威です。この後、8月下旬に職員総出で手作業で収穫するそうです。

## &lt;循環型企業を目指して Ecology &gt;

ごま油の製造過程で生じる澱（おり）や絞り粕、表皮を専用工場で作る肥料原料として有効利用しています。年間2千トン販売しています。さらにその肥料を利用して、九鬼ファームという子会社で、国産ゴマ、ニンニク、薬草等様々な野菜の栽培に取り組んでいて、できたゴマを本社工場に送り込んで製品化しています。まさに循環型です。それは有機溶剤を使っていないからこそできることです。国産ごまの栽培では、機械化をめざして、日々様々な工夫、研究を行っています。

## &lt;安全を追求 Safety&gt;

残留農薬検査、細菌検査を行い、徹底した安全管理システムを堅持しています。

フードディフェンスへの取り組みも継続的に行っています。サーモグラフカメラを設置し、不審者の侵入や危害を防ぐための対策を行っています。

## &lt;未来のために Challenge &gt;

太陽光パネル、水力発電機を設置しました。

フェアトレード認証のごまの製品化にも取り組んでいます。フェアトレードとは、途上国の人々による生産物を適正な価格で取引を行い、生産者の収入向上を目的とした貿易取引の新しい仕組みです。

工場、圃場見学の際、それぞれの部署の職員のみなさんに、詳しいご案内をいただきました。素人の私たちの素朴な疑問にも、丁寧にお答えいただきました。お世話になったみなさんに、この紙面を借りてお礼を申し上げます。

## 地域と協同の研究センターNEWS「CONTENTS」

【巻頭言】子ども食堂の意義と今後の課題「あいち子ども食堂ネットワーク」の設立経緯から【成元哲（そんうおんちよる）中京大学教授】	1	▶「くらしを語りあう会」より	4
▶ものづくりの思いを語る会 九鬼産業の「妥協しない」姿勢に学ぶ	2	▶情報クラブ	5
▶プチフォーラムin ぎぶ 報告「ひなたぼっこ」理事長斎藤啓治さん	3	▶【企画紹介】第32回 保団連 医療研究フォーラム	8
		【書籍紹介】シリーズ田園回帰8 世界の田園回帰	

## プチフォーラム in ぎふ 報告

## 当事者の心の声を聞く一心の声を聴く福祉現場をつくりあげたい

今回はNPO法人「ひなたぼっこ」理事長の齋藤啓治（さいとう・けいじ=写真）さんを招き、2017年2月に開かれた第13回東海交流フォーラムでの発表の内容をもう少しじっくりとお聞きし、話し合う場として、7月22日（土）、生活協同組合コープぎふ本部（岐阜県各務原市）にて開催されました。お話された内容は、あらためて報告する予定ですが、今回はその内容のいくつかのポイントを紹介します。当日の参加は20名を超えました。

**◆なぜ、福祉の現場に身を置いたのか** 齋藤さんは、生協をはじめ、福祉事業におけるいわば市場競争のなかでの規模の拡大や、介護保険の性格から「採算性重視の方針」に疑問を感じ、もうすこし「人間としてひとりひとりに向き合った福祉」のあり方を追求したいとの思いから、1999年ごろから岐阜県中津川市蛭川（ひるかわ・旧蛭川村）にて運動を始められた。宅老所からはじまり、福祉医療のネットワーク（地域医療に携わる新任の医師も誕生）を進めながら、認知症グループホーム（そよ風）や小規模多機能ホーム（こまんば）を展開。ここでの方針は1施設には10人以上の入居をみとめないという「小規模性の追求」にありました。介護保険の改悪により、小規模での事業所の継続の困難さが強まるなか、運営の継続のためのさまざまな取り組みが報告されています。

**◆ほぼ寝たきりの重度障害のある人を支えるための取り組み** 2016年には、重度障害のある人を対象にしたNPO法人「あきの里」が立ち上がりました。24時間介護が必要な重度の障害のある人へのとりくみは、大きな運動となり、多額の寄付をあつめながらの開設となりました。やむをえず、病院に入院する場合でも、この24時間のホームヘルパーが付くようになったのも、運動の成果であり、これらの認可を決めた自治体は岐阜県では中津川市のみとなっています。

**◆協同労働の試み** 「ひなたぼっこ」がめざすのは、いわば協同労働による地域協同であり、自由に自発的に、みずからの規範、仕組み、ルールをつくりあげながら、地域、会員の参加を広げ、事業と運動をすすめていくこと、をめざしています。協同労働とは、社会・地域のなかに生活の課題を意識し、仕事をおこし、人間らしく働き、質の高いよい仕事を生み出しながら、



継続して地域・社会を再生していくことを課題としてもつ「新しい働きかた」。「ひなたぼっこ」では同一労働同一賃金がベースとなり、49名の職員のうち7名いる障害のある人の労働も同一の評価であり、区別されてはいません。職員参加による賃金の決定などの関わりなども、職員の働きがい、モチベーションの高さをもたらしているようです。

まだまだ、紹介したい活動や、エピソードが豊富にあります。ここでは、当日に参加された方の感想をすこし紹介したいと思います。

- \* 障害のある人も高齢者もみんな平等で素晴らしい居場所がつけられていると感じた。
- \* 寄付で運営されていることに驚いた。職員の定年もなく運営にかかわって風通しの良い職場なのだろうと伺い、うらやましく感じた。
- \* みんなで相談し課題を解決して、楽しく働ける職場が増えるとよいと思う。こんな施設で働きたいし、お世話になりたい。
- \* 訪問ヘルパーをしているが、日ごろ介護保険制度に疑問を感じていた。本日のお話は心に「すとん」と落ち納得できた。近ければ職員として働かせてほしいと感じた。職員として是非働かせてあげたい障害のある知人もいる。
- \* 利用者さんの笑顔や表情が良かった。“市民力”“地域力”という言葉を学んだ。これから具体的提案をしていくことが大事だと学んだ。

まだまだ紹介したい感想はありますが、ここで取り上げた内容から、齋藤さんのお話が、それこそストンと胸のなかに落ち、よく理解されているように感じます。これからも「ひなたぼっこ」の活動に注目したいと思います。

熊崎 辰広（くまざき・たつひろ、岐阜地域懇談会世話人）



# 「くらしを語りあう会」より

発足は 2012 年 3 月 20 日

きっかけは、2011 年の「東日本大震災」。「3.11」の現実を目の当たりにし、考えたさまざまのことを表現したいと自主的に集まったメンバーが「新しい日常へ 文集 3.11 後のくらし」という文集をつくりました。(残念ながら現在この文集の在庫はありません)

この文集に書かれたのは、「普通のくらし」を奪われた東北の方たちに私たちができることは何か…、「奪われた普通のくらし」のかけがえのなさ…、「普通のくらし」を守るためにこれからすべきこと…、これからの「普通のくらし」に必要なものは何か…、「普通のくらし」を根こそぎ壊す原発事故…、その原発でつくられた電気で成り立っている「普通のくらし」それでもいいのか？—などなど大震災によって起こった出来事について、それぞれのくらしの中から考えられたことばかりでした。

文集を作った後、このなかで語られた「くらしへの思い」を大切に、その思いを更に広げるため、お互い言いたいことを語りあい、聞き合う、おしゃべりをする会を立ち上げました。それが「くらしを語りあう会」です。

「くらしを語りあう会」ニュース第 1 号から「くらしを語りあう会」準備会を 2012 年 3 月 20 日に開き、正式に結成を確認しました。これまで話し合われたことを一部紹介します。

名古屋市内の大学で、被災地にボランティアに出かけた。そこでの体験を学生に書かせようとしたが、彼ら・彼女らが、被災地での体験から受けた思い・考えたことなど文章に表すことが非常に難しかったというエピソードを、先生から伺ったという話から、次のような話し合いが生まれた。**情報の洪水の中にいる私たち。**しかし、自分の思いを発信することはくらしの中では、あまりないというより、ほとんどない…。溢れている情報の中から、なんとなく自分の気持ちに沿う表現を選んで「私の意見・私の思い」として『よし』としているのではないのか？目の前で起きていることについて、自分のくらしの実感から一経験・今身のまわりで起きていること・こうありたい理想—自分の言葉で『こうでなくっちゃ』と発信することが必要。

「くらし」というと一般的には「消費生活」だが、くらしとは、そんなに狭いものではないはず。**くらしは、生きること、社会そのもの、あらゆること。**生産している人の「くらし」もある。今、大量生産大量消費という社会の枠組みの中に、くらしは取り込まれている。沢山のモノを消費することが豊かな「くらし」という刷

り込みがなされている。企業が提案するくらしではなくて、将来のため、環境のためにより「くらし」を探りたい。

世の中の流れを本当に視ているのは庶民一知識があるわけではない—今、彼らが、何かを感じている。例えば、農業への関心がガラリと変わった。かつて、市民農園、農協と行政でほそぼそとやっていたが、今の広がりはずごい。くらしの価値観が変わってきている。世の中は 50 年、100 年の単位で動いている、孫の孫の世代まで考えてくらしすることが大切、と気づきはじめた。

この会でやりたいことは。

- ① 共感できるくらしのスタイルを広めたい。
- ② 100 年よりもっと先のくらしのために個人々々が努力していることを普及する。
- ③ 問題提起する。生活の便利をどこまで追求すべきなのか。消費者ニーズって本当に消費者が望んでいることなのか。身近なことから考えあい、具体的な提案ができることよい。

そして、自分以外の「くらし」の否定はしない。若い人たちの行動について、「語りあう会」の中で話題になるとき、否定的に行動をとりあげることが多い。例えば、自分なりの工夫で味付けをしない、「〇〇の素」がないと料理が出来ない、醤油と味醂と酒と酢さえあれば何でもできるのに…というたぐいのもの。しかし、若い人の行動を否定するところからは、何も生まれません。そんな彼らに寄り添って、より良い「くらし」を目指す方法を考えあいたい。

「くらしを語りあう会」のこれから

消費者は、生産者の呼びかけに応えることが求められている。三重県の若い生産者から、「僕たちは頑張って野菜を作るのだけれど、それを受け止めてくれる（購入する）消費者が必要」と言われた。生協の組合員の中には、呼びかけに応える素地を持った人が相当数存在する。生協の職員の中にも呼びかけに応える素地を持った人がいる。しかし、生協は受けとめる条件を持っていても、現実にはなかなかその好条件を活かしきれていない。

「くらしを語りあう会」で話されているようなことが、あちこちの場で日常的に話され、身近な地域での「豊かなくらしをめざす取り組み」を共有したいものである

井貝 順子 (いかい・じゅんこ)  
くらしを語りあう会々員

2ヶ月に1回お届けする「くらしを語りあう会ニュース(手書き)」をどうぞ、ご覧ください。

▶あなたも会にご参加ください。

◎次回 10 月 17 日(火)13:30~/コープあいち生協生活文化会館

# 情報 クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価/ページ数
<p>▶新商品登場でさらに充実! CO・OP 共済の良さを もっと広めよう</p> <hr/> <p><b>NAVI</b> 2017. 8 No. 785</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p><b>特集 新商品登場でさらに充実CO・OP共済の良さをもっと広めよう!</b>                      &lt;コープのある風景&gt; コープあきた                      &lt;こんにちは!生協女子です!&gt; コープ北陸事業連合 山村智美さん                      &lt;地域に愛される店づくり・人づくり&gt; コープしが コープぜぜ店                      &lt;私の本ナビ&gt; コープさが生協                      &lt;エッセイ わな猟師の春夏秋冬&gt; 千松信也                      &lt;宅配・現場レポート&gt; コープながの                      &lt;生協大好きママ コプ山さんの教えて!CO・OP商品&gt; CO・OP梅酢たこ                      &lt;日本全国ふだんのくらしを支えたい&gt; パルシステム茨城                      &lt;想いをかたちにコープ商品&gt;                      セフターの包材にメカニカルリサイクルPETを採用                      &lt;☆突撃☆あなたの町の組合員活動&gt; コープおおいた                      &lt;明日のくらし ささえあうCO・OP共済&gt; エフコープ                      &lt;この人に聴きたい&gt; 帝京大学ラグビー部 監督 岩出雅之さん                      &lt;ほっとnavi&gt; ユーコープ 京都生協</p>	<p>2017年 7月 A4版 36頁 定価360円</p>
<p>▶2020年の 超高齢社会に向け 事業者として 生協がすべきこと</p> <hr/> <p><b>生協運営資料</b> 2017. 7 No. 296</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>巻頭インタビュー●わが生協、かくありたい! 組合員との合意形成を経て店舗事業を再建 人の力とつながりを生かし次のステージへ コープぐんま●代表理事 理事長 梅澤義夫氏</p> <p><b>特集 2020年代の超高齢社会に向け事業者として生協がすべきこと</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「ディープな高齢社会」に向かう 事業環境の変化と生協への提言 (公財) 流通経済研究所●理事 根本重之氏</li> <li>2 ライフステージ別のカタログを中心に 欲しい商品が見つかる仕組みを構築する パルシステム連合会●常務執行役員 広報本部長 高橋宏通氏</li> <li>3 過疎化や高齢化の進む地域でも つながりを生かし店舗事業を伸ばす 京都生協●執行役員 事業戦略室長 宮本 忍氏</li> <li>4 自宅で暮らし続ける高齢者に欠かせない 持続可能な事業の基盤整備に取り組む コープこうべ●宅配事業部 夕食サポート 統括 岡田智恵氏</li> </ol> <p>●これからの店舗事業のあり方を考える 第8回 「おいしさ、楽しさ、発見、感動」というコンセプトに基づき 新たなチャレンジを重ねる (株) コンシェルジュ●常務取締役 永田正人氏</p> <p>●全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ 第20回 新入職員から見たセンターの現実を受け止め 生き生きと働き続けられる職場づくりに挑む コープみらい●コープデリ習志野センター センター長 松川哲也氏 宅配運営部 部長 町田 誠氏 コープデリ連合会●コープデリ宅配事業 宅配運営企画部 次長 吉田清秀氏</p> <p>●短期連載 人づくりを考える <b>東海地方で進む大学生協・医療福祉生協・地域生協が連携した人づくり</b> (一社) 協働・夢プロジェクト●専務理事 今井信彦氏 大学生協東海事業連合●人事教育部 石橋純子氏</p>	<p>2017年 7月 B5版 84頁 定価870円</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 巻号 定価/頁数
<p>▶JA自己改革の現場から</p> <hr/> <p><b>月刊 J A</b></p> <p>2017. 8 vol. 750</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>スゴイ農業、スゴイ J A <b>J A 自己改革の現場から</b></p> <p>①地域のビジョンを描き、組み立てる創造的的自己改革                      ー J A かいふ (徳島県)「きゅうりタウン構想」の挑戦に学ぶ 小林 元</p> <p>②新規栽培者が加わることでさらに期待される産地に                      ー J A 会津よつば (福島県) 南郷トマト生産組合 J A 全中広報部                      農政トピック                      アクティブ・メンバーシップの確立に向けた J A グループの取り組みについて                      J A 全中 J A 支援部 組合員・くらしの対策推進課</p> <p>きずな春秋 ー協同のこころー 童門冬二                      私のオピニオン 三浦留麗                      J A トップインタビュー J A もリスクを負って米・園芸で所得アップ                      宮田幸一 (福井県 J A 若狭 代表理事組合長)</p> <p>展望 J A の進むべき道                      「成果」「組合員の高い評価」「今後の計画」を明確にして情報発信                      比嘉政浩 ( J A 全中専務理事)</p> <p>こんなときどうする？                      思いが伝わる写真を撮るために① 鈴木正美</p> <p><b>第 30 回 広報活動優良 J A 紹介</b>  <b>組合員向け広報誌の部 優秀賞 J A 蒲都市 (愛知県)</b>                      海外だより [D. C. 通信] 連載 75                      いよいよ始まる NAFTA 再交渉 吉澤龍一郎</p>	<p>2017 年 8 月 A 4 版 48 頁 年間予約 5,109 円 (送 料・消費税込)</p>
<p>▶食肉と消費を めぐる動き</p> <hr/> <p><b>生活協同組合研究</b></p> <p>2017. 8 Vol. 499</p> <p>公益財団法人 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言 「賢い消費者」の限界 天野晴子</p> <p>▶特集 食肉と消費をめぐる動き</p> <p>食肉と健康に関する事情 河原 聡                      食肉の格付けとブランド化の課題 甲斐 諭</p> <p>国産大衆牛肉生産の課題と展望                      ー T P P 11 推進、米国の 2 国間交渉要求危惧のなかでー 佐々木 悟                      我が国の食肉の安全性、特に食肉、加熱不足の危険性について 鈴木穂高                      家庭における生鮮肉消費の動向 宮崎達郎</p> <p>コラム 1 パル・ミートの概要と食肉供給について 鈴木 岳                      コラム 2 「地鶏」・「銘柄鶏」とはなにか 鈴木 岳                      コラム 3 日本におけるハラル認証と食肉 山梨杏菜                      コラム 4 肉料理とブドウ酒、日本酒との相性少考 鈴木 岳</p> <p>■研究と調査                      コープみらい「くらしのプラットフォーム」の取り組み 中村由香</p> <p>■時々再録                      想定内を想定外にしないために 白水忠隆</p> <p>■本誌特集を読んで (2017・6) 岡田広行・加藤好一</p> <p>■私の愛蔵書                      野口嘉則著 『鏡の法則』                      ジェームス・アレン著 坂本貢一訳 『「原因」と「結果」の法則』 遠藤陽子</p> <p>●2017 年度公開研究会 (8/31)                      国際協同組合研究の最新動向</p> <p>●2017 年度公開研究会 (東京 9/12、京都 10/18)                      スイスの二大生協の歴史と現況</p>	<p>2017 年 8 月 72 頁 B5 版</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価/頁
▶アメリカの世界戦略と アフガニスタン	農協組合長インタビュー（41）担い手農家へ出向く体制強化 久保田恵一 兼田 健 薬価制度の抜本改革と医薬品購入対策 二木教授の医療時評（149） 「地域包括ケア研究会 2016 年度報告書」をどう読むか？ 二木 立 二木教授の医療時評（150） 「骨太方針 2017」・「未来投資戦略 2017」の医療改革方針に新味はあるか？ 二木 立 第 13 回「厚生連医療機器・保守問題対策会議」および 「LCC 紙上セミナー」開催報告 正手早知子 農業競争力強化プログラム関連法は何を狙うか（2） 畜安法改正や収入保険法で農業所得は増えるか 田代洋一 現代社会と協同組合（5）協同組合セクター論と現代社会 北出俊昭 レシャード・カレドさんに聞く（上） アメリカの世界戦略とアフガニスタン レシャード・カレド アメリカの医療制度（11）共和党の医療制度改革（その 3） 高山一夫	2017 年 8 月 B5 版 88 頁 文化連情報 編集部 03-3370-2529 *注
~~~~~ 文化連情報 2017. 8 No. 473	韓国農業の実相—日本との比較を通じて（12） トウルニョク経営体の実践実態 品川 優 セントラルキッチンさくの取り組み（2） 松本誠治 第 87 回関東福島厚生連医療材料共同購入委員会・ 第 39 回関東福島厚生連医療材料共同購入対策会議報告 金川達夫 第 3 回厚生連病院臨床研究研修会報告 酒井真弓 地域の建築業が実践する再生可能エネルギー—福島県棚倉町の事例 大平佳男	
日本文化厚生農業協同組合連合会	岡田玲一郎の間歇言（143） 医は仁術か算術か、算術を排し仁術へ 岡田玲一郎 デンマーク&世界の地域居住（99） オランダの革新 18：ソーシャル・バイク・チーム（1） 松岡洋子 熱帯の自然誌（17） 田舎の道路事情と距離の感覚 安間繁樹 ●野の風● 全員が出資者で、全員が経営者で、全員が労働者／山田千尋 □自著を語る 西表島探検／安間繁樹 □書籍紹介 農協改革・ポスト T P P・地域／熊谷麻紀 □書籍紹介 最後の時を自分らしく／小磯 明 ▶線路は続く（113） 予讃線 日本一短い夏の小駅／西出健史	

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています（主な内容は目次等から事務局が要約しています）。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

地域と協同の研究センター 8月の活動	
8月1日(火)	くらしを語りあう会
8月2日(水)	三河地域懇談会世話人会
8月3日(木)	研究フォーラム「環境」世話人会
8月4日(金)-5日(土)	生協の（未来の）あり方研究会宿泊討論
8月7日(月)	愛知の協同組合間協同と記念行事相談会
8月8日(火)-9日(水)	ものづくりの思いを語る会「九鬼産業」訪問
8月22日(火)	ワーカーズコープ・新本部長来訪，研究フォーラム「食と農」世話人会
8月24日(木)	岐阜地域懇談会世話人会
8月25日(金)	協同の未来塾③，研究フォーラム「地域福祉」世話人会
8月26日(土)	生協の（未来の）あり方研究会
8月31日(木)	常任理事会

企画案内

市民公開企画 記念企画(対談)

第32回 保団連 医療研究フォーラム

メインテーマ 一人ひとりの尊厳を守る社会をめざして-医療人に求められること

■日時 10月8日(日) 16:45~18:15
■会場 ウィンクあいち(愛知県産業労働センター)

〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-4-38

受付開始 15:30 開会16:30 会場は2階大ホール 参加無料

対談 益川 敏英氏 ノーベル物理学賞受賞者
名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長

鎌田 實氏 医師・諏訪中央病院名誉院長 作家

対談テーマ:今をどう生きる-子や孫が安心して暮らせる社会をどう残すか

展示企画 8日(日) 16:00~19:00 9日(月) 9:00~16:00

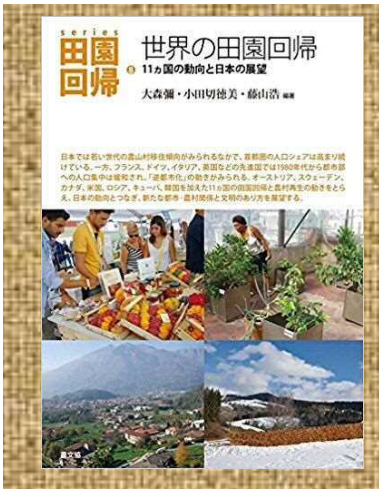
◆写真展「流転・福島&チェルノブイリ」

◆パネル展示 「戦争と医の倫理」

主催:全国保険団体連合会 主務:愛知県保険医協会

お問い合わせ:愛知県保険医協会 TEL052-832-1345 FAX 052-834-3584

書籍案内



シリーズ田園回帰8 世界の田園回帰 11カ国の動向と日本の展望
著者大森彌 編著 小田切徳美 編著 藤山浩 編著
出版:農山漁村文化協会(農文協) 定価2,376円(税込)
判型/頁数A5 268ページ 発行日:2017/03
【内容】日本では若い世代の農山村移住傾向がみられる一方で、首都圏の人口シフトは高まり続けている。一方、フランス、ドイツ、イタリア、英国などの先進国では1980年代頃から都市部への人口集中は緩和され、「逆都市化」の動きもみられる。スウェーデン、オーストリア、カナダ、米国、ロシア、キューバ、韓国を加えた11カ国の田園回帰と農村再生の動きをとらえ、日本での展開と比較しつつ、新たな都市-農村関係を展望する。
農山漁村文化協会ホームページより

2017年8月25日発行(毎月25日発行)
定価200円
(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)
発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
代表理事 西川 幸城
〒464-0824 名古屋市中村区稲舟通1-39
TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315
E-mail AEL03416@nifty.com
HP http://www.tiiki-kyodo.net/

地域と協同の研究センター 9月の活動予定
9月2日(土) 共同購入事業マイスターコース
9月4日(月) NEWS編集委員会
9月7日(木) 三河地域懇談会世話人会
9月11日(月) 尾張地域懇談会世話人会
愛知の協同組合間協同相談会
9月14日(木) 三重地域懇談会世話人会
9月15日(金) 組合員理事ゼミナール
9月16日(土) 第14回東海交流フォーラム実行委員会※
「2030年へのメッセージ」第二弾公開企画※
9月22日(金) -23日(金)協同の未来塾合宿・協同学苑(神戸市)
9月28日(木) 研究フォーラム「食と農」世話人会「酪農家視察(予)」
10月1日(日) 2017協同集会in東海※

活動予定「※マーク」の取り組みは差し込みのご案内がございます。どなたも、お気軽にご参加ください。